
彼女の裏の顔

空北之風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女の裏の顔

【Nコード】

N7975L

【作者名】

空北之風

【あらすじ】

一部実話を含みます・・・

「ただいま」

夜、バイトから帰って来た俺は、だれもない真っ暗な空間につぶやいた。

正面を見れば、暗闇の中で電話機の着信表示が点滅している。

靴をぬいで、そのボタンをおすと、聞き慣れた声が聞こえて来た。

「もしもし。今日私遊んで帰るから、夜ご飯よろしくね」

着信時間はだいたい2時間前だった。

ハア、と深いため息を一つついて、俺は晩飯の支度をすべく、台所へと向かった。

彼女が帰ってきたのは、俺が料理を始めてから20分くらいしてからだった。

「うーん、おいしそうな匂い。今日は何？」

リズムカルに言う彼女。

「肉じゃが……。どうした？いやに上機嫌だな？」

肉じゃがの煮込み具合をじつと凝視しながら言う俺。

「まあね」

「その様子だと、今回は当たりだったみたいだな……」

そういうとクスクスと笑う彼女。

「うん、いい感じだった」

「だった？…もう別れたのか？」

「もちろん。だって好きじゃないもん」

こともなげに言った。

「かわいそうに……。んで？今回はいくら貢がせたんだ？」
少し意地悪く聞いてみた。

「貢がせた…ってひどくない？私に投資してくれたの！だいたい…」
どうやら機嫌を損ねそうだ。

「あゝ…はいはい。んでいくら？」

「だいたい10万前後…」

「10万！3日で！」

つい大声をだしてしまう。

「そう。すごいでしょ」

「はあ…」

「つくづく男って…馬鹿だよね」

不穏な余韻を含ませて言う彼女。

「…俺もその男って分類に入るんだけど？」

「あなたは別」

「……。まあいいけどさ。あんま調子にのんなよ。最近少し噂になりつつある」

「え、そうなの？」

「ああ、ごく一部だけだな。まあほどほどにしとけ。よし、そろそろだな。おい、皿を出してくれ」

「えゝ？」

「やらんなら食わせんぞ」

「チエツ」

そついうと彼女は皿をだしに行動にうつった。

（後書き）

あなたの身の回りにもいるかもしれません。
気をつけましょう（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7975/>

彼女の裏の顔

2010年12月10日02時40分発行